

# ミカドアゲハの蛹化方向－葉先方向？それとも葉柄方向？－(Ⅲ)

川野 雅喜

## 1. はじめに

(Ⅱ)で報告したように、2016年末から2017年にかけて、葉先向き葉柄際括り付け有りのサナギ7個の越冬を試みたが、そのうち1つは、鳥に捕食されてしまい6個の越冬観察となった。

また、2017年もミカドアゲハの蛹化方向について引き続き観察を行った。

これらの結果から、(Ⅱ)で予想したように、

葉先向き蛹化個体は越冬。吐糸による括り付けあり。  
葉柄向き蛹化個体は年内羽化。括り付け無し。

と言う結論を得た。食樹は全て在来種オガタマノキ(*Michelia compressa*)である。また当然のこととして、年1化の地域では葉柄向きサナギは出現しない、葉先向きサナギのみである。

## 2. 葉先向き越冬サナギの羽化。

6個は全て春に一齐に羽化した。(Ⅱ)の予想が正しかったと言える。次に表にまとめた。

2017/4/23	♀ 1, ♂ 1
2017/4/25	♀ 2
2017/4/28	♀ 1
2017/5/01	♀ 1

雌雄の区別は腹部末端で行っている。



♀が多いように見えるが、サナギが少ないための見かけの結果だろう。春に多くのミカドアゲハを見かけるが、これは越冬蛹が一齐に羽化するためと考えて良いようである。

ミカドアゲハは春に一齐に羽化するらしいとは従来言われていたことではあるが、それが正しい事が証明できたようである。

## 3. 葉柄向きサナギの羽化

葉柄向きサナギは(Ⅱ)で予想したように全て年内羽化である。(Ⅱ)の予想が正しかったと言える。

2017/6/16	♀ 1
2017/6/22	♂ 1
2017/8/01	♂ 1

2016年も葉柄向きサナギ4個は全て年内羽化をしている。

## 4. 葉先向きサナギの羽化

2017年は観察していない。2016年は1個体のみ年内羽化。(Ⅱ)の予想が正しかったと言える。

## 5. 葉先向きサナギの越冬

2017年12月25日現在、6個が屋外で越冬中である。これらは全て(Ⅱ)の予想が正しかったと言える。しかし、1個は緑色だったものが茶褐色に色が変わってきており、すでに死んでいると思われる。もちろんネットを掛けて、鳥による捕食を防いでいる。2018年の春には一齐に羽化する

はずである。とても楽しみ。

## 6. 終わりに

3年間に亘り園芸種オガタマノキ(*Michelia figo*)と在来種オガタマノキ(*Michelia compressa*)でのミカドアゲハの蛹化方向について観察を続けてきて一応の結論が出せたと思う。

ところで、この蛹化方向についての観察のきっかけの一つとして、小松孝寛氏のウェブサイト「宮崎の昆虫」に記述されていた「(ミカドアゲハの)蛹の方向はアオスジアゲハと逆で葉先の方に頭を向ける。」がある。これを見た時「何で・・・？我が家と違うワ。」であった。そして、小松孝寛氏やmiyakon@freeml.comでの多くの方々の貴重なご意見を頂いたこともあり、観察を続けることになった。

これらが無かったら、在来種オガタマノキを通販で買うことも無く、観察も3年間続かず、「わあ～、庭でミカドアゲハが生まれた。うれしい、感激。」「幼虫、めっちゃ可愛いワ。」「写真撮りまくろう！」で終わっていた。

参考ウェブサイト(2017年12月現在)

小松孝寛、宮崎の昆虫、<http://www.miyakon.sakura.ne.jp/>

川野雅喜、大分のチョウ、<http://kiageha.sakura.ne.jp/>

珍しい蝶！ミカドアゲハ —曹源寺—

<http://digioka.libnet.pref.okayama.jp/detail-jp/id/kyo/M2014120214063069272>

## 参考文献

上田恵介、大山弘貴、2013、アオスジアゲハとミカドアゲハの蛹の擬装～形態と葉への付き方～  
立教大学理学部生命理学科

上田恵介、木下豪、2013、アオスジアゲハにおける幼虫・蛹のカモフラージュと葉への付き方  
立教大学理学部生命理学科

福田春男ほか、1982、原色日本蝶類生態図鑑(I)、保育社：PLATA9, PLATE11, 93, 96

大津修ほか、1999、ミカドアゲハ成長の記録、*Butterflies*(24)、56-59

福田治、2004、ミカドアゲハのサナギは下向きが好き、*博多虫*(8)、39

学研編集部、2005、日本産幼虫図鑑、学研、東京都、121

難波 通孝、2009、岡山県におけるミカドアゲハの分布拡大

～東進に関する定点調査(1999～2008年)～、*月刊むし*(457)、25-31

出嶋利明、2012、香川県におけるミカドアゲハの分布拡大、*やどり*が(234)、26-27

福田春男、2012、野外飼育による日本列島におけるミカドアゲハの周年経過の再検討  
*Butterflies*(*Teinopalpus*)(61)、23-34

井上大成、石井実、平成28年、環境Eco選書12、チョウの分布拡大、北隆館、東京都

川野雅喜、2015、ミカドアゲハの蛹化方向—葉先方向？それとも葉柄方向？—  
*タテハモドキ*(51)、1-6

川野雅喜、2016、ミカドアゲハの蛹化方向—葉先方向？それとも葉柄方向？—(II)  
*タテハモドキ*(52)、1-8

(かわの まさき：〒870-0133 大分県大分市葛木982-5)

追記

2018 4/11 ♂1  
4/14 ♀1  
4/15 ♀1  
4/16 ♂1  
4/19 ♀1

以上 5匹 羽化する。

宮崎昆虫同好会 タテハモドキ No, 53(2017)97-98